発声発語障害学演習 II

［演習］ 第３学年　前期　必修　2単位

《担当者名》柳田早織　s.yanagi@hoku-iryo-u.ac.jp

【概　要】
発声発語障害のうち、機能性構音障害、吃音、音声障害の評価および訓練方法の実際を学ぶ。

【学修目標】
＜一般目標＞
機能性構音障害、吃音、音声障害の評価および訓練方法の基本的手技を修得し、検査結果を統合して解釈できる。
＜行動目標＞
1．ことばの音の誤りを音声記号を用いて適切に表記できる。
2．構音検査を手引きに沿って実施し、結果を正しく解釈できる。
3．吃音症状を適切に記述し、吃頻度を算出できる。
4．声の聴覚印象をGRBAS尺度を用いて評価できる。
5．音響分析や空気力学的手法を用いて音声を定量的に評価できる。
6．発声発語障害の評価に必要な情報収集ができる。
7．発声発語障害に対する訓練プログラムを立案できる。
8．発声発語障害に対する基本的治療手技を実践できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	演習の進め方や注意点について	柳田早織
2 ～ 3	機能性構音障害	異常構音の聴き取り	柳田早織
4	機能性構音障害	構音検査の目的、概要、実施方法	柳田早織
5 ～ 6	機能性構音障害	発達途上にみられる音の誤り（ケース1） 発達途上にみられる音の誤り（ケース2）	柳田早織
7	機能性構音障害	構音検査の結果の分析（単語検査まとめ1.2）	柳田早織
8	機能性構音障害	構音検査の結果の分析（構音検査の結果、総まとめ）	柳田早織
9 ～ 10	機能性構音障害	訓練プログラムの立案	柳田早織
11	機能性構音障害	訓練プログラムの立案（解説）	柳田早織
12	機能性構音障害	[k]、[s]、側音化構音の訓練方法	柳田早織
13 ～ 14	機能性構音障害	新版構音検査	柳田早織
15 ～ 16	吃音	吃音症状、吃頻度、適応性・一貫性の算出	柳田早織
17	音声障害	聴覚心理的評価（GRBAS）	柳田早織
18	音声障害	問診	柳田早織
19 ～ 24	音声障害	音響分析、空気力学的検査、生理的声域の測定	柳田早織
25	音声障害	音響分析、空気力学的評価、生理的声域の測定（解説）	柳田早織
26	音声障害	音声治療	柳田早織

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
～ 28			
29 ～ 30	まとめ	総括（小テストと解説）	柳田早織

【授業実施形態】
面接授業
※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】
定期試験（50%）、講義内課題（20%）、小テスト（30%）

【教科書】
「新版構音検査手引書」　千葉テストセンター
その他、発声発語障害学Ⅱで使用した教科書を使用する。

【備考】
発声発語障害学Ⅱの教科書および配布資料を毎回持参すること。
視聴覚教材は、Glexaにて提示する。
音声サンプルの聴取を行う演習課題では、ノートPCまたはタブレット端末およびイヤホンを使用する。
音響分析の演習に備え、フリー音響分析ソフト（Praat）を各自のPCにインストールしておくこと。
⇒詳細はmanabaのコースニュースで通知するので、必ず確認すること

【学修の準備】
予習として、発声発語障害学Ⅱの学習内容を応用した事前課題に取り組み、学習目標とキーワードを設定すること。（20分）
復習として、自己調整学習状況を振り返り（自己省察）、改善のための具体的学習方略を列挙し実践すること。（20分）

【ディプロマポリシー（学位授与方針）との関連】
（DP2）最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。
（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。
（DP4）関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。

【実務経験】
柳田早織（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】
医療機関での実務経験を活かし、機能性構音障害、吃音、音声障害のリハビリテーションに関する基本的知識の活用、評価および訓練に要する技術の修得を指導する。